

では差がなかった。これらのことから、新しい心筋では血流・脂肪酸代謝とも正常、古い心筋では血流正常・脂肪酸代謝の障害が予想された。

15. Remitting Seronegative Symmetrical Synovitis with Pitting Edema の骨シンチグラフィ

池上 匡 高橋 延和 板垣 麗子
藤田 和俊 萩原 浩明 小澤 幸彦
野沢 武夫 松原 升 (横浜市大・放)

Remitting Seronegative Symmetrical Synovitis with Pitting Edema (RS3PE) は最近提唱されたリウマチ類縁の疾患群である。リウマチ因子が陰性で高齢の男性に多く、急性発症の対称性の滑膜炎と浮腫、炎症反応を呈するが、抗炎症剤や少量のステロイド剤に劇的に反応して寛解するといった特徴的な病態を示す。われわれは RS3PE の 2 例の患者に骨シンチグラフィを施行したので報告する。症例 1 は 77 歳の男性で、上記の症状を呈しステロイド剤で寛解した。骨シンチ上は対称性の手関節から中手骨への集積を主とし、症状改善後の骨シンチでは集積も改善していた。症例 2 は 54 歳の男性で、骨シンチで手関節、足根骨への集積を示した。症状はステロイド剤によって劇的に改善した。本疾患は原因不明の関節炎とされている症例も多いと思われ、骨シンチが診断および経過観察に有用であるため、核医学診断医も知っておくべき病態と考え報告した。

16. 胸腰椎骨 SPECT 像における Pedicle sign について

小須田 茂 浜 幸寛 末岡 貞登
草野 正一 (防衛医大・放)

胸腰椎骨 SPECT 像における Pedicle sign が骨転移と変形性脊椎症との鑑別に有用であるかを 188 例、253 病巣について検討した。SPECT 像の transaxial 像から 5 つの集積分布パターンに分類した。その結果、椎体外(椎弓根、横・棘突起、facet joint)のみの集積は 78 椎体 (30.8%) みられ、68 例 (87%) が変形性脊椎症等の良性疾患、10 例 (13%) が骨転移であった。両側 facet joint に一致した集積は変形性脊椎症の特徴的所見と思われた。骨シンチグラム上の pedicle sign

は 64 椎体で 32 椎体 (50%) は椎体内集積を認めた。pedicle sign を示した骨転移は 16 椎体で 10 椎体は椎体内に転移を認めた。両側の pedicle sign は 55 椎体で 16 椎体 (29%) は椎体内集積を認めた。両側 pedicle sign を示した骨転移は 4 椎体で 3 椎体は椎体内に転移を認めた。

17. 肺癌における骨シンチグラフィ早期 SPECT

川本 雅美 岩澤 多恵
(神奈川県循環器呼吸器病セ・放)
池上 匡 松原 升 (横浜市大・放)

治療前の肺癌患者 17 症例(腺癌 10, 扁平上皮癌 5, 小細胞癌 2) に骨シンチグラフィ早期 SPECT を施行し、腫瘍への集積の有無を検討した。^{99m}Tc-HMDP 740 MBq を静注し、10 分後より胸部の SPECT を撮像した。腫瘍への集積の有無を放射線科医 2 名により判定し、組織型との関係を検討した。17 症例中、集積ありと判定されたのは 6 症例、集積なしと判定されたのは 11 症例であり、陽性率は 35% であった。組織別の陽性率は、腺癌が 30%, 扁平上皮癌 40%, 小細胞癌 50% となり、組織型による集積の違いはみられなかった。集積ありとされた症例でも、腫瘍への集積は軽微であった。また集積は不明瞭であることが多く、その原因として、骨や心・大血管への集積の影響、肺野への集積の個人差、炎症巣に比較的強い集積が認められることなどが挙げられる。

肺癌への^{99m}Tc-HMDP の早期集積に一定の傾向は認められなかった。

18. 運動負荷誘発性 VPC を認めた心室中部閉塞性肥大型心筋症 (MVO) 例の心筋 SPECT 所見

山中 英之 阿久津 靖 伴 良雄
片桐 敬 (昭和大・三内)
武中 泰樹 篠塚 明 (同・放)

症例は 74 歳女性。意識消失、心不全で入院。心不全改善後の心臓カテーテル検査で冠動脈の狭窄は認められなかったが、左室造影上、左室中部に収縮期圧較差 160 mmHg を呈する閉塞性肥大像が認められ、心筋生検所見とあわせて MVO と診断、同時期に施行した運動負荷²⁰¹Tl SPECT では心尖部下側壁の集積の